# ピースフェア 2018 in 千葉を開いて

ちば・戦争体験を伝える会　市川まり子

5 回目となる「ピースフェア」を、今年もきぼーる 1 階アトリウムで開くことができました。

ちば・戦争体験を伝える会と千葉市空襲と戦争を語る会の共催ですが、今回は企画段階から、少し若い世代の皆様の参加を得て、これまでとは一味違った「ピースフェア」になりました。準備から撤収まで 1 週間、たくさんの助っ人も駆け付け、ステージ発表とパネル展示で参加 62 団体、5 日間の来場延べ人数は 2757 名を数え、多くの皆様に支えられています。

初日のオープニングコンサートから、常連の皆様による豪華なステージが繰り広げられ、連日、歌・演奏・ダンス・手品・詩の朗読・紙芝居・太極拳・・と、魅力的なステージが多くの観客を呼び寄せ、会場全体に温かい空気が流れ、「平和」の有り難さを実感しました。

今年は、cafe どんぐりの木を拠点にしたよりみちカフェ主宰のお一人･北川直実さんとの出会いから、「若者から若者への手紙　2020 プロジェクト」の活動紹介とそこに参加する若者たちが発言して対話する「若者たちとの集い」も実現し、若い皆さんの頼もしい発言を聴けました。津田塾大学 Peace Art Project による「イラク内戦と子どもたち」の展示、「憲法はじめの一歩」の展示では「あなたの好きな憲法条文は？」シール投票への呼びかけが毎日交代で行われました。ママの会＠ちばも、活動紹介とは別に「いまさらきけない！？憲法ってなに？」を展示。子どもや若い人たちにも馴染みやすく、「憲法」を分かりやすく伝えてくれました。

更に、東京成徳大学空襲研究会の皆さんが、地元で 11 人の方が亡くなった「米本空襲」について取り組み、聴き取り調査等によって明らかになった事実とその背景、そこから考えたこと等をパネルにして、収集した戦時中の遺品とともに展示。「全国の空襲」等を扱った本や地図にも載っていない「空襲」がおそらく各地であり、犠牲となった方々がいらしたことを改めて考えさせられました。都合が付く限り、指導者の小薗先生を始め学生の皆さんが来てくださって、新聞報道もあって地元や遠くからも来場した方々との対話が重ねられていました。

これまで懸案だった「空襲」「原爆」の惨憺たる被害の前から日本軍が海外で行ってきた加害行為について、これまでも中国戦線での体験談や紙芝居等の展示はわずかながらしてきましたが、今回、被害者ご本人とその遺族の方が描いた「重慶大爆撃の絵画」を展示することができました。昨年、「重慶大爆撃写真・絵画展」を拝見し、生々しい「写真」ではなく、親子連れなど様々な皆様がおいでになるきぼーるでの開催に当たって、「絵画」の展示を申し入れました。破壊された街とそこに傷つき倒れる人々や嘆き悲しむ人々を描きだした絵を凝視して、その悲惨な事実と過酷な戦後の日々を綴った説明書きを読んで立ちつくされる方もありました。世界各地で戦争・紛争が続く現在、国際社会で生きていく若い人たちに特に見て欲しい展示でした。

昨年までに完成した紙芝居 16 作品の展示を始め、千葉市空襲・東京大空襲・全国の空襲地図、「小池仁さん戦争体験画」の展示も 3 回目となりました。展示については、毎年アンケートに寄せられるご意見を活かして少しずつ充実させ、持ち帰り資料が欲しいとのご要望に応えて、これまで作製した紙芝居と語られた体験談の小冊子を作成し実費で販売、「千葉市空襲」「国民学校から小学校へ」「全国の空襲地図」などを資料として置き、好評でした。そこに収録された体験談を「二度と繰り返してはいけない」と直接語りに来てくださった皆様、戦争を体験された皆様がお元気でいてくださることが何より心強く思われます。２つの会のスタッフも毎年１つずつ歳をとっていきますが、その話に熱心に耳を傾けてくださる方がいらっしゃる限り、この「ピースフェア」を続けなければと考えます。どうぞ来年もよろしくお願いいたします。